

★今月のオススメの商品★

★一度使うと他のものが使えないと評判です！！



超硬質窯業サイディング用チップソー

極^{キワミ}ダイヤトライアングル

YSK サイズは2種類あります。
100mm×厚1.5mm
125mm×厚1.5mm

¥12501(税込)

※各サイズの価格は同じです。

【超硬質材料に強い！！】

【超長寿命！！】

軽い切断・美しい切れ味

- 消音・制振レーザースリット
- 新開発トライアングル刃
- 高品質・高硬度ダイヤモンド使用



美しい切れ味・長寿命の秘密は刃の形状にあります。



信夫山③

信夫山はその昔、優秀な金山だった！

信夫山がその昔、金山であった事はご存知でしょうか？福島で鎌倉時代頃から金鉱山として有名だったのが信夫山金山、大森の城山、松川金山だそうです。この時代と言えはかの有名な源義経が活躍していた頃でその歴史の古さを感じる事ができます。信夫山を探索してみるとあちこちに昔の金鉱跡があり、その周辺には昔のたぬき掘りの穴の跡もたくさん残されているそうです。たぬき掘りとは人が一人やっと入れるほどの穴を、金脈をたどりタガネで掘り進んだものです。一般的に金鉱山は鉱石1トンあたりに7グラムの金が含まれていれば採算が取れると言われますが信夫山の金は1トンあたり14グラムの金が含まれていたとの事で大変優秀な金山だったことがわかります。本格的な採掘がはじまったのが昭和8年。昭和10年代には信夫山北側・早坂地帯のいたる所に金鉱石を掘り出したズリ山(土山)があり、選鉱場や飯場などができ、鉱夫や家族でかなり賑わっていたそうです。ただ、小さい山ですから掘りつくされてしまい、今ではその名残りとして坑道入口跡を見るだけになってしまいました。その後の金鉱跡地は終戦間際に中島飛行機の戦闘機のエンジンを組み立てる地下工場に利用されることになり、大勢の人達が工事に従事しています。信夫山は歴史を知るたびにその印象が変わり改めてすごい山なんだと実感いたします。

ねもかな通信 No.80

平成30年 3月号

発行人 (株)根本金物
〒960-8032 福島市陣場町9-28
TEL 024-534-0962
FAX 024-531-3024

優ライフ情報

今月の「わいわいクラブ」は三月二十八日(水)午後二時です。皆様のご参加お待ちしております。



『ロシアの思惑』

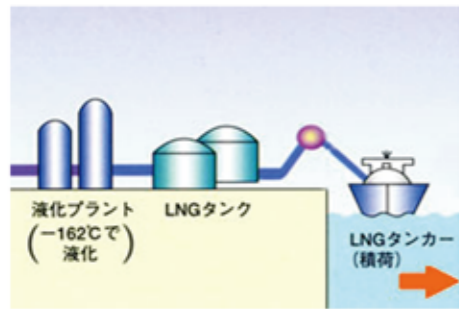
根本 勉

一月九日ニッポン放送(ラジオ)で放送された「ザ・ボイスそこまで言うか？」という番組が気になる内容だったので紹介します。その日のゲストは筑波大学教授でロシアに詳しい国際政治学者 中村逸郎氏の最新情報でした。中村教授は、年末年始ロシアで過ごしたそうです。今年の三月末にはロシア大統領選があり現在のプーチン氏は圧倒的な支持を得ており再選は間違いないと思われ(支持率が80%もあるようです)、町はプーチングッズで溢れています。面白かったのはプーチンの顔を描いたチヨコレートがかなりの評判だったとか？なにやらこのプーチン大人気のことを「スーパープーチン」と称しているようです！

その話とは別に耳に止まったのは次の様な事でした。

プーチンはサハリンからの天然ガスをパイプラインで北朝鮮を経由し韓国釜山まで通すため、韓国に北朝鮮と仲良くして欲しいと伝えたようです。これには現在韓国におけるエネルギー事情として天然ガスをタンカーで運ぶため162℃まで下げて液化したものを運ぶしかないわけですが直接パイプラインで持ってくればエネルギー原価が1/4以下になると云うのです。北朝鮮はガスの通過量を頂きますしロシアとしても天然ガスが売れますし、釜山港から液化天然ガスとして出荷しやすくなるメリットもあります。更には北朝鮮から中国へのルートも考えているらしいと云うのです。その為にはどうしても北朝鮮と韓国には仲良くしてもらわなくてはなりません。そういえば韓国の文大統領は北朝鮮と非常に融和的な対応でしたし突然『人道支援！』と言って『九億円拠出する！』と言いつつ、平昌オリンピックに北朝鮮も是非参加してほしいとのメッセージもずつと言いつつ続けてきました。

なるほど韓国が北朝鮮に対して融和策をとり続ける理由がなんとなく理解できました。この計画が実行されればロシアはもとより韓国・北朝鮮の「三方良し」と云うことでしょう。また、中村教授はこんな事も言っていました。『もしかするとそのとき日本は技術や、お金だけを持っていかれるかもしれませんがよほど慎重にやらないといけないでしょう。』ラジオを聴いていて『外交って難しいなあ』と思いました。



【お客様の声】

パウハウス 室内用手すり
エンドブラケット金属カバー付



今回お客様からのご要望で、手すりのエンドブラケット金属カバー付(35φ ゴールド色)を入荷致しました。従来品はカバーが樹脂だったのに対して、金属製のものになり本体と同色になり耐候性、耐久性が向上しました。また入隅にも対応しているので、ネジを斜めに打てるようになっております。(斜め打ち用、直打ち用、両方のネジが付属しています)入隅ギリギリに取り付けてもカバーの着脱が可能な設計のため、本体を入隅にピッタリ当てて施工できます。

メンバーの小部屋

趣味のことから思った事、感じた事など自由にコメントしております。楽しんで頂けると幸いです。

「キンカン」 平尾 和重



冬の時期になるとスーパーなどで見かけるようになる「キンカン」。ミカンの小さい形状のもので生食のほか、はちみつ漬けやのど飴などで有名です。我が家にも鉢植えが1つあるのですが、樹にはまだ黄色になりきっていない実が5つなっています。もちろんまだ食べられないのですが、娘はどんなものか食べたくてしょうがない。そこでスーパーから購入してきたキンカンを1つ食べさせてみることに。少し大人の味だと思ったのですが、生で一つかじらせてみると…。

それまで所有権を主張していたキンカンについて一言、「うちのキンカン、みんな食べてもいいよ！」どうもお口に合わなかったようです(笑)

「塩」 佐藤 信吾



先日テレビにて塩の特集を目にしました。今は専門店ができるほど種類が豊富で特定の食材、料理に合わせた塩まで出ているそうです。そういえば我が家にも頂き物で手付かずにしてきた塩の詰め合わせがあったことを思い出、早速台所へ。見てみると、用途に合わせた別々の塩がなんと8種類も入っていました。8種類入っているのは嬉しいけど、書いてある用途できちんと使っていったら、容器がカラになるまで何年かかるのだろう。使い切るまで先は長いぞ(笑)

「車検」 我彦 武大



先月、愛車のコペンが初の車検でした。新たに設けたポジションランプ(車幅灯)のせいで一発では車検に通らず、いろいろな方のご助力を得て、どうにか無事に車検を通すことができました。ところで車検に絡めて、こんな話題はご存知でしょうか？
以前にタカタ製エアバックのリコール問題がありましたが、エアバックの未改修車両の一部は今年の5月から車検が通らないそうです。タカタ製エアバックの不良が原因で、国内では2件の負傷事故が発生しているためでしょうか。対象車両は100万台近くに上るそうです。
人のことは言えませんが、検査員の方の手間を掛けないためにも、一発で車検は通したいものです。

☆☆☆☆ちよひんせ☆☆☆☆

日増しに春を感じられるようになる3月はひな祭りやホワイトデーや卒業式などの行事・イベントがいっぱい。また、日にちの語呂合わせから制定された記念日というものも多数あります。その中で3月27日の「さくらの日」というものがあるのですが、その語呂の合わせ方がなんとも無理やりのような…。

3(さ)×9(く)=27ということだそうなのですが、ご存知でしたか？

私のオススメの一冊



「幸せになる生き方、働き方」 塚越 寛 著



佐藤 信吾

この本を読んでまず感じたことは、周りへの感謝の気持ちが足りないということです。ハッと思ったのは、自分が健康で暮らしているのは当たり前ではないということです。自分が与えられた状況の中でどう生きるべきなのかが書いてあり、色々考えさせられました。自分は周りの人に支えられている、助けられていることを忘れずに感謝の気持ちを持って生きていきたいと感じました。まずは自分自身、身近な人を幸せにすることを心掛けていきたいです。仕事の面でも、やはり学び続けなければいけないということです。若いうちの時間は特に学びに費やさなくてはいけないことも書いてありました。この部分は足りないところなので、今後しっかりやっていきたいと思います。その他にも、やるべきことをきちんとやるのが大事だということも記載されてありました。そして結果は出すものではなく出るもので、普段からやるべきことをやっていたら自然と結果が出てくるということです。計画をきちんと立てて、計画どおりに実行できることが何よりも結果に直結することを改めて学びました。そしてこれらを「続ける」というのが一番難しいことであり、これができればすべてうまくいくのでこのクセづくりをしっかりとりたいと思います。まずは自分の事がしっかりできないようでは、お客様をはじめ周りの人々を感動させることはできないので、日々学びながら精進していきたいと感じました。

「嫌われる勇気」 岸見 一郎 著 古賀 史隆 著



平尾 和重

本書は、フロイトやユングと並び「心理学の三大巨頭」と称されるアルフレッド・アドラーの思想を哲人と青年の対話という形式でまとめられた一冊です。「人はどうすれば幸せに生きることができるのか」という哲学的な問いにきわめて簡単にかつ具体的に答えています。私自身、アドラー心理学とはなんぞやというレベルだったのですが、それまで読んできた自己啓発本にはない解釈に妙に納得してしまいました。また、哲人と青年の対話形式の物語は、自らが心理学の先生に質問したり、相談しているような気分にもなり、読者を飽きさせない面白いものです。特に「トラウマ」というものの存在を否定し、トラウマを原因とする現在の状況は実は本人が心の奥底で望んでいるものであるという説明にとっても驚きを感じました。「トラウマがあっても人生が上手くいかないのではなく、出来ない自分をトラウマのせいにしてしまっている」。原因論から目的論へ転換するその思想に自らの心情などがとてもよく当てはまり、今までのモヤモヤとした悩みが少し解消された気がいたします。まだまだこの心理学を理解したわけではないのですが、考え方一つで前向きな気持ちになれるという事を実感いたしました。自分に自信を持っていない人や目標がなかなか見つからない人など何となく行き詰まりを感じている方には是非おススメです。この心理学を知らない方は気軽にその考え方に触れてみるという事でもよいと思います。



「心がほっとするいい話」 志賀内 泰弘 著

我彦 武大

私はこの本を読んで、他人ができないことを行動に移すことで「感動」が生まれると学びました。特に「感動が生まれるサービスエリア」の節を読んで、人のために尽くすサービスを行っていきたくと思いました。とあるサービスエリアで家族で昼食をとったときに、子どもが取り外し式の歯科矯正器を紙ナプキンに挟んだままトイレ返却コーナーへ持って行ってしまい、そのまま帰宅し夜になって思い出したそうです。高価なものなので電話で事情を話し、「探させてほしい」と伝えてサービスエリアに慌てて戻りました。到着すると、すでに何人ものスタッフが勤務時間を過ぎているにも関わらず店舗の裏のごみ袋を開けて探してくれました。そして、食べ残しの汚れた膨大なゴミの中から、器具を見つけました。私も「お客様のために」に尽くしたいと思う心はありますが、食べ残しの汚れたゴミ袋を1袋だけでなく、多くの方が利用するので、10袋以上はあったのではないのでしょうか。自分だったらここまでできないと思いました。ですが、この「これはできない」と思ったことを、即行動に移せたら、相手は「感動」してくれるはず。そのためには損得勘定ではなく、お客様の満足を夢中で模索する努力が必要なのだと思います。